

R8.6

舞鶴ふるさと発見館

舞鶴市郷土資料館だより

★舞鶴市内の学生は入館無料です★

サロンスペース
特集

むかしの傘作り



竹で作った
輪っか状の道具（すべこみ）



傘作りで使う刷毛



6月といえば梅雨ですね。サロンスペースでは**和傘づくりの道具**を展示します。「弁当忘れても傘忘れるな」で知られる舞鶴も近年雨の降り方が変わってきました。しかしやはり6月は梅雨の季節に変わりありません。

和傘は、昭和35(1960)年頃まではまだ一般に使われていました。その後どんどん洋傘に変わり、今では撮影用ぐらいにしか使われていません。また、**竹と和紙で作る**和傘は細かい工程が多く当時はすべて手作りでした。今では珍しい和傘作りの道具をご覧ください。

ミュージアム
トーク

6/14 (日)
13:30~14:30

妖怪絵巻について

展示室にて実施

★参加費無料

★前日までに郷土資料館(75-8836)へ

ミュージアムトークのテーマは展示中の与謝蕪村『妖怪絵巻』についてです。江戸時代中期の俳人と謝蕪村は俳画でも有名です。また松尾芭蕉にあこがれて各地を放浪する間に、さまざまな妖怪譚を伝え聞いたようです。肝試しにはちょっと早いですが、妖怪の話どうぞ。

学芸員が選ぶ
今月の一品

よ さ ぶ そん よう かい え まき
与謝蕪村 『妖怪絵巻』
(復刻版)

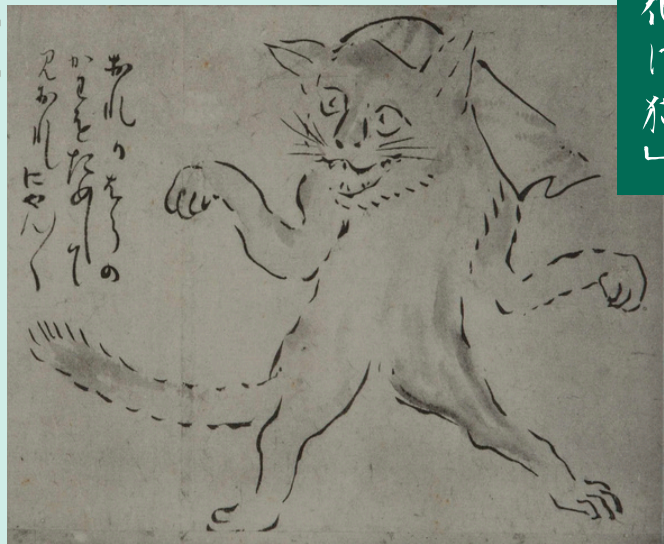
「**化け猫**」

【意味】

俺の腹の皮を試してみる

【翻刻】

おれのはらの
かわをためして



今月の一品は与謝蕪村の『妖怪絵巻』です。当館で展示するのは、昭和3(1928)年に大阪の実業家北田彦三郎(雅号紫水)が刊行した復刻版です。『妖怪絵巻』はもともと、与謝蕪村が滞在した宮津の見性寺の欄間に張られていたと伝わっていますが、原物の所在は不明となっています。

絵巻には7つの図が描かれており、**当館の展示ケースでは一挙にお見せできない長〜い作品**です(341.5cmあります)。よって6月と7月にわたって、ご覧いただける妖怪たちを入れ替えながら展示します。

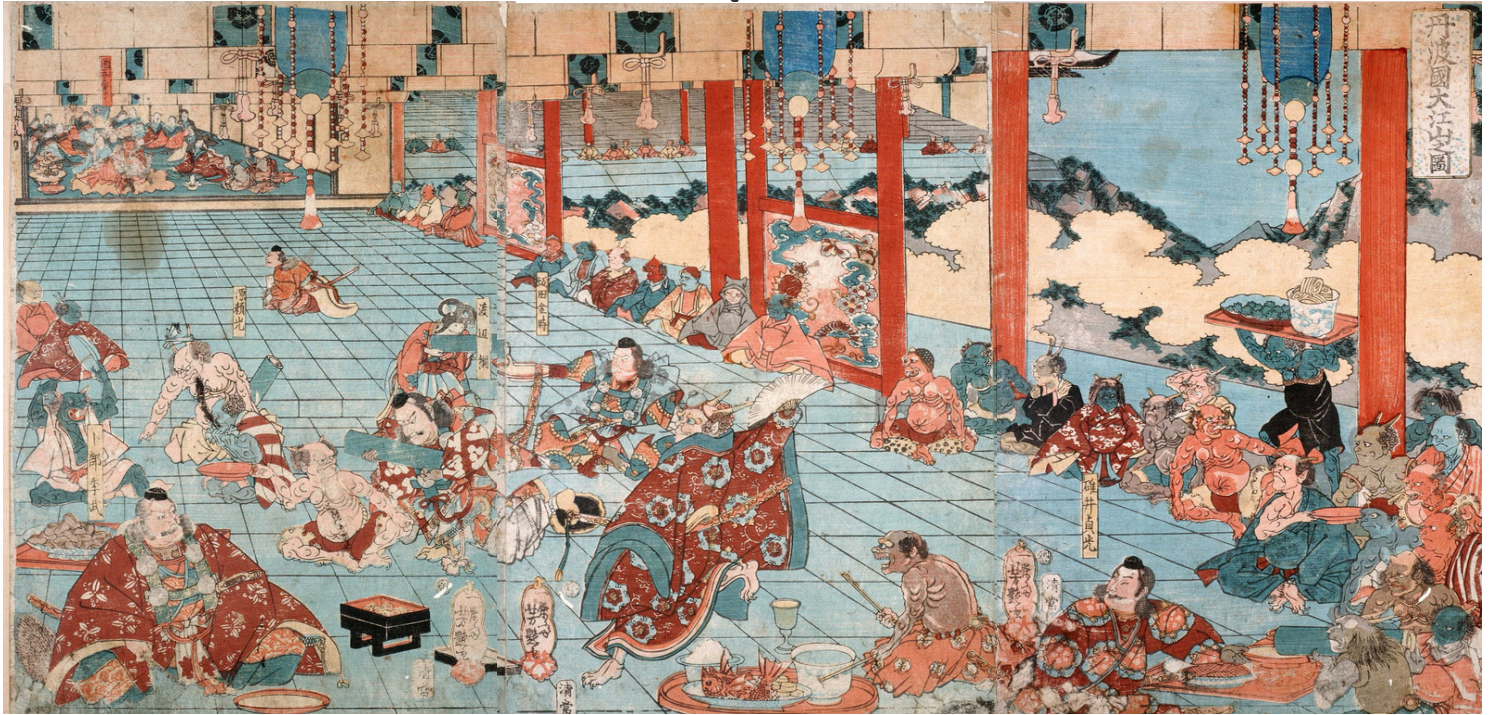
【予告】7月は企画展開催のため、妖怪絵巻の展示は7月20日(月・祝)まで。お見逃しなく!

糸井文庫コーナー 6月のテーマ

糸井文庫は糸井仙之助が集めた丹後関連資料（約2200点）です。
中でも丹後の伝説を描いた浮世絵が約200点あります。そこで、当館
では毎月テーマを決めて糸井文庫の浮世絵を紹介しています。

小鬼も見てね！

「丹波国大江山之図」
うたがわよしつや 歌川芳艶 糸井文庫



配膳する小鬼に、豪華な着物で舞う小鬼 着物姿の小鬼がいっぱい！？

今月は糸井文庫の約200枚の浮世絵の中から、「小鬼」たちを探してみました。小鬼が登場するのは、皆さんもよくご存じの鬼の首領・酒呑童子を描いた作品です。酒呑童子に従う小鬼たちの姿は、どこかユーモラスで愛嬌があります。

しかし小鬼ファンには残念なことに、酒呑童子伝説の同じ場面を描いた作品であっても、従者を「人間の姿」で描く絵師も多く、小鬼が登場する作例はそれほど多くありません。今月は、同場面を描いた歌川派の絵師たち（国芳・芳員・芳艶）による作品を同時に展示いたします。絵師によって異なる表現を、ぜひ見比べながらお楽しみください。

★西舞鶴駅から徒歩10分★



舞鶴ふるさと発見館（舞鶴市郷土資料館）

開館時間 9:00～17:00（最終入館16:30まで）

今月の休館日

1日（月）・8日（月）・15日（月）・22日（月）・29日（月）

〒624-0853

舞鶴市字南田辺1番地

西総合会館 1F北側

TEL 0773-75-8836 FAX 0773-77-1314

入館料

大人 100円
舞鶴市外の学生
50円

★舞鶴市内に居住または通学する学生は入館無料です★